

新規事業採択時評価結果（平成21年度新規事業化箇所）

担当課：近畿地方整備局 都市整備課
担当課長名：奥田 舘夫

事業の概要

事業名	都市計画道路 西脇山口線（園部・六十谷）	事業区分	街路	事業主体	和歌山県
起終点	起点：和歌山県和歌山市園部 終点：和歌山県和歌山市直川	延長	1.9 km		
<p>事業概要</p> <p>都市計画道路西脇山口線は、和歌山市北部における東西の幹線軸となる延長約1.6.8 kmの重要路線である。本事業は、交通渋滞の解消及び安全な歩行空間の確保のため、延長1.9 kmにおいて幅員2.5 m（4車線）の整備を行うものである。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>本路線は和歌山市長期総合計画において市内外環状道路に位置づけされている重要路線である。本事業区間は慢性的な渋滞が発生しており、特に【六十谷交差点】及び【六十谷駅前交差点】は渋滞ポイントに位置付けされている。また、現道をJR六十谷駅の乗降客らが多数利用するが、歩道がなく歩行者と車が錯綜している状況である。このため、本事業の整備により、交通渋滞の解消を図るとともに安全な歩行空間を確保するものである。</p>					
全体事業費	148億円	計画交通量	23,300～31,800台/日		
<p>事業概要図</p> <p>位置図</p> <p>凡例 H21新規箇所 事業中箇所 未着手箇所 渋滞ポイント</p>					

関係する地方公共団体等の意見
 地元自治会より本路線の渋滞解消を求める早期整備の要望を受けている。

事業採択の前提条件
 便益が費用を上回っている。
 都市計画決定済み。
 円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用：136億円 （事業費：136億円 維持管理費：0.47億円）	総便益：161億円 （走行時間短縮便益：128億円 走行経費減少便益：23億円 交通事故減少便益：9.7億円）	基準年 平成20年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.3（交通量+10%）	B/C=1.1（交通量-10%）		
		事業費変動	B/C=1.1（事業費+10%）	B/C=1.3（事業費-10%）		
		事業期間変動	B/C=1.1（事業期間+10%）	B/C=1.2（事業期間-10%）		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		事業実施により渋滞の解消が図られる。 【渋滞損失時間の改善】 970,341人時間/年（和歌山県平均：75,724人時間/年） 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】 144,827人時間/年・km（和歌山県平均：14,023人時間/年・km） 【渋滞度曲線】和歌山県内センサス区間の上位1割に含まれる。 【その他の特徴】渋滞ポイントの解消（六十谷交差点、六十谷駅前交差点）		
		事故対策		事業実施により当該区間の事故減少が見込まれる。 【死傷事故率】342件/億台キロ（H15～H18現況） 死傷事故率比（県管理道路平均比）=4.4 死傷事故率比（全国平均比）=3.1 【その他の特徴】事故危険箇所2箇所が含まれる。		
	社会全体への影響	歩行空間		幅の広い歩道が整備され、良好な歩行空間が確保される。（両側歩道、幅員：4.5m）		
		住民生活		和歌山市北部と中心部を連絡するバス路線の定時制確保及び利便性の向上が図られる。		
		地域経済		事業中の第二阪和国道に連結しており、大阪方面への物流の効率化が図られる。		
		災害		第二次緊急輸送道路に指定されており、災害時の輸送道路としての確実性の向上が図られる。		
		環境		慢性的な渋滞の解消が図られることにより、CO2排出量の削減が見込まれる。		
地域社会			日常活動圏である和歌山市中心部へのアクセス向上が図られる。			
事業実施環境			和歌山市長期総合計画において市内外環状道路に位置づけされている。			

採択の理由

事業主体である和歌山県が実施した評価結果に基づけば、費用便益費が1.2と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 和歌山市長期総合計画で市内環状道路に位置づけられている重要路線である。
 慢性的な交通渋滞が解消されるとともに、周辺小学校等に通学する学童や駅利用通行者の安全確保が図られる。
 以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。